

(仮訳)

プレス・リリース

2021年9月20日

バーゼル銀行監督委員会は、サイバー・レジリエンスの向上を求め、気候関連金融リスクについてレビューし、デジタル化の影響について議論

- バーゼル銀行監督委員会（以下「バーゼル委」）は、銀行のサイバー脅威に対する強靭性を向上させるためのさらなる取組みを求めるニュースレターを公表。
- 気候関連金融リスクについての作業の状況把握を行い、共通する一連のグローバルなサステナビリティ基準を開発する取組みを歓迎。
- 金融のデジタル化が銀行システムにもたらす影響について議論。

バーゼル委は、本日、銀行に対してサイバー脅威に対する強靭性を向上させるよう求めるニュースレターを公表した。

これは、グローバルな銀行システムにおけるリスクと脆弱性について検証し、監督上及び政策上の取組みについて議論した、9月15日及び20日のバーゼル委会合に基づくものである。

「グローバルな銀行システムに対するサイバー脅威・事象によるリスクは、ここ数年増加している。新型コロナウイルス感染症はこれらのリスクをさらに高めた。銀行は、サイバーリスクの性質と範囲の変化に照らして、サイバーセキュリティ上の脅威・事象に対する強靭性を引き続き向上させなければならない。」

——— パブロ・エルナンデス・デ・コス、バーゼル委議長・スペイン中央銀行総裁

そうした目的のため、同ニュースレターは、銀行のサイバーセキュリティ強化策の広範な導入を促進する一助となるだろう。これは、今年発表されたオペレーショナル・レジリエンスとオペレーショナル・リスクに関する一連の諸原則を含む、バーゼル委の以前の公表物を補完するものである。

バーゼル委は気候関連金融リスクについても議論した。4月に公表された気候関連金融リスクに関する一連の分析報告書に引き続き、バーゼル委は現在のバーゼル枠組み

がこうしたリスクをどの程度適切に軽減しているかを検証している。

この作業の一環として、関連する一連の監督実務を策定しており、それについては今年中に市中協議を行う予定である。また、追加的な開示、監督、更には規制措置が必要かどうかも検討する予定である。

また、バーゼル委は、国際サステナビリティ基準審議会（IFRS）の設立を含め、国際会計基準（IFRS）財団が、サステナビリティ報告の一貫性、比較可能性及び信頼性を向上させるために、共通する一連のグローバルなサステナビリティ基準を策定する取組みを行っていることを歓迎した。バーゼル委は、IFRS 財団やその他のフォーラムとの間で、気候関連の情報開示に関する取組みについて、引き続き連携していく。

バーゼル委メンバーはまた、リテール銀行に焦点を当て、現在も進行している銀行システムに対する金融のデジタル化と非仲介化の影響についても議論した。テーマ別に深掘りした分析では、金融技術に関する銀行の戦略的意思決定の要因を取り上げた。バーゼル委はまた、ノンバンクの金融機関やテクノロジー企業を含む、リテール銀行業務の提供に関する競争状況、特に主な監督上の課題とリスクについてレビューした。バーゼル委ではこうした問題について引き続き検証していく。